

事例1:障害者の生活を豊かにするための障害者手帳や障害年金の取得

発表テーマ:利用者ニーズ

事業所名:就労継続支援 B 型事業所 さくら工房

担当者:施設長 南部 和幸

施設・事業所紹介

就労継続支援 B 型事業所として、精神障害者及び知的障害者を支援。サービス内容は、ゴムのバリ取りなどの室内作業と斎場掃除、わんぱく広場の灌水作業、ポスティングなどの外作業です。喫茶さくらを運営しています。利用者は定員 10 名です。

【取組内容について】

1 取組を行ったきっかけ

計画相談にて通所者の課題を検討していると障害者手帳を持たれてない方、障害年金を貰っていない方が居られました。それぞれを取得するために職員が動こうとしたが、通常業務が多忙のため、中々作業が進みませんでした。

2 具体的な取組内容

- 施設長自身がこの作業を主体的に行いました。
- 障害者のために障害年金取得を熱心に進めておられる社労士を見つけてお願いすることとしました。
- 障害年金取得のためには若い頃の生活状況を説明できる第三者の方からの「状況説明書」が必要でした。その方を探し出して、障害者の当時の状況をお話して貰い、「状況説明書」を作成しました。
- 障害年金取得のための「病歴・就労状況等申立書」を本人と相談しながら作成しました。
- 療育手帳は、幼児期・小・中・高の若い時の成績表等資料が必要であるが、その資料が全く無い時でも「状況説明書」で代替して申請をしました。

3 成果と評価

- 中年の方の障害年金取得は困難に思えるが、診断書と共に、「状況説明書」を 2 通準備し、「病歴・就労状況等申立書」を注意深く作成した結果、4 名の方の障害年金を受給まで結びつけることが出来ました。
- 生活保護の方の場合は、社労士は謝金を貰えないので支援を断られたが、年金事務所に予約を取れば、1 時間ゆっくり説明して貰え、資料作成を進めることが出来ました。

4 今後の課題、他の施設・事業所へのアドバイスなど

- 障害年金、障害者手帳取得には、障害福祉課や生活保護担当課と相談すると、色々アドバイスを頂けたので、色々な方に相談するのが良いと思います。何か方法は有る筈なので諦めずに進めると新しい道が開けます。

事例2: デイサービス稼働時間外は地域のこどもからご高齢の方々の交流の間へ

発表テーマ: 地域との連携

事業所名: 雅の里リハビリテーションセンター

担当者: 門條 宏宣、山田 祐実

施設・事業所紹介

リハビリテーション特化型の通所介護・総合事業施設です。セラピスト・介護福祉士・看護師等と連携し、利用者の自立支援・介護予防に取り組んでいます。

【取組内容について】

1 取組を行ったきっかけ

デイサービスを利用される利用者は、外出先が自宅と施設の往復のみとなる方が多く、加えて、地域にお住まいの方々には、「デイサービス」と聞くと一般の方には縁のない場所であるという認識がありました。今後、共生社会・地域を目指す上では、デイサービスをご利用の方がより多くの場所に出かけることができる、そして、地域にお住まいの方が気軽に交流できる場所が必要と考えました。

また、明石市は転入世帯が多く、人口は増加しているが、地元から離れての子育てが始まり、地域との関係が希薄な方が多いといった声をよく耳にしていました。

2 具体的な取組内容

- ① 通所介護稼働時間外は「地域の交流の場」として運営
通所介護の運営時間は平日の 8 時から 15～16 時までとなっています。16 時以降は近所の方が気軽に足を運ぶことができる間、また、通所介護の運動器具を使用できる運動提供と交流の間として提供しました。
- ② 通所介護施設を増設し、厨房スペースを作り、こども食堂をオープン
地域内の交流を作るには、「参加」の間が必要と考えました。そこで厨房を増設し、こども食堂をオープンしました(中尾こども食堂～バリオ～)。近所にお住まいの方々に、厨房担当のボランティアとして運営に参画していただき、地域にお住まいの方が作る手料理を、地域の方々に提供する間としました。
- ③ 土曜日はカフェ・日曜日は自費のフィットネス事業所として開放
通所介護は平日のみの運営をしているため、土曜日は厨房スペースを活用してカフェを運営し、地域の交流の間としました(飲食店営業許可取得済)。第 3 土曜日は地域の民生委員の方々と認知症カフェを運営しています。
日曜日は地域の方々の健康増進と交流を目的に、自費のフィットネス事業所として開放しています。

3 成果と評価

① 「地域の交流の場」について

施設を開放している水曜日と金曜日には、毎回約 10 名の方にお越しいただき交流の間となっています。

② こども食堂

地域のボランティア5名の方に参画していただき、毎回 15 名ほどの親子らに利用していただいています。

また、明石こども財団、魚住総合支援センター、スクールソーシャルワーカーと連携し、支援の要請があったお子さんにこども食堂に参加していただくだけでなく、ボランティアスタッフとしても参画していただいています。

③ カフェとフィットネス

地域の方々、通所介護の利用者、地域の親子が定期的にカフェを利用し、交流の間となっています。また認知症カフェにおいても、毎回約 10 名の方々にお越しいただき、地域のボランティアの方々との連携が図れていると考えています。

4 今後の課題、他の施設・事業所へのアドバイスなど

通所介護・総合事業の利用者の方々の方々の社会参加の場となることを目指していきたいと考えています。

当施設には要支援の認定をお持ちの方が多いが、心身機能の向上を図ることができれば通所介護を卒業し、こども食堂やカフェの運営に関わっていただくことなどに繋げていきたいと思っています。このような事例が増えると、真に健康な方が増え、社会保障費の抑制につながると考えています。

課題は、多様性を尊重し合える間にしていくことです。障がいをお持ちの方、性的マイノリティーの方、不登校の方などとも、自然と交流が図れるようにしていきたいと思っています。

そのためには、今現在お越しいただいている、俗にいう健常者の方々に“認識”をもっていただく必要があると考えています。ついては、今後は我々と一緒に様々な研修を一緒に受け、共に学びを深めていきたいと考えています。

事例3:分かりやすくなった支援!! ～個別療育・小集団療育～

発表テーマ:相談体制の充実／利用者ニーズ／利用者家族ニーズ／自立支援
／利用者生き生き支援／地域との連携
事業所名:feel 大久保

施設・事業所紹介

feel 大久保ではカウンセリング・検査・研修、フリースクール、その他放課後等デイサービス等の療育事業を行っています。発達障害、不登校を含む子ども・保護者・関係者が気軽に相談できる心のよりどころになれるよう、お子様や保護者、関係者のニーズをお聴きし、生活や学習に関わる相談や支援を行います。場合に応じて関係機関と連携して長期的なサポートを行います。

【取組内容について】

1 取組を行ったきっかけ

学校や日常生活の中で、困ったことやしんどいことがあった時に、お子さんや保護者の方が少しでも楽しく過ごせるように、そして、将来の生きる力につながるよう、力になればと思います。

2 具体的な取組内容

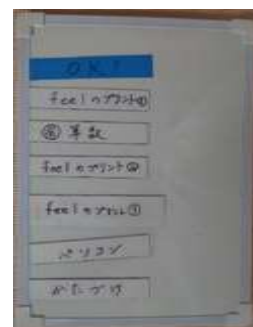
■個別療育

スケジュールボード

ホワイトボードにマグネットシールを貼ることで、順番を簡単に変わられます。

本人が課題の全体を把握し、スケジュールを視覚化することで、見通しを持って、取り組むことができるようになります。

また、継続的に行うことで、自分に合った勉強方法を知り、習慣となるよう繋げていきます。



気持ちを整える方法

イライラした時や気持ちのコントロールが難しい時に＜怒ルジョだね＞等、本人の気持ちをキャラクターで表現することで、楽しく、気持ちを切り替えやすくなり、落ち着いて状況や気持ちを受け入れることが増えました。

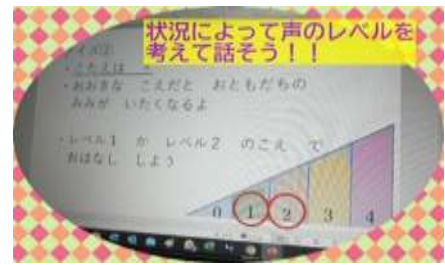
また、自分でキャラクターを作り、楽しく気持ちを表現することもできるようになりました。



■小集団療育

SST

声の大きさ:実際に声を出してみて、状況に応じた声の大きさを考えます。自分の考えを話したり、お友だちの意見を聞いたりすることで、他者の視点を持ち、他者の気持ちや考え方を知り、様々な場面でその場に応じたより良いコミュニケーションが取れるようにしていきます。



運動

風船バレー:風船を追うことで視覚の運動や体全体を動かすことができ、直接風船バレーをしなくても、審判や応援などで、たくさんのお友だちが参加できます。また、『2回風船が落ちたら交代』などルールを自分たちで考え、話しあいながらきめていくことで、相手の意見を聞く力や自分の思いを伝える力などを養う SST にもなります。



制作

スライム:色の配合を考えたり、自分の気に入った触り心地を追求し、ホウ砂やのりの分量を調節したりするなど、一人一人のオリジナルスライムを考え工夫していくことにより、作業に集中して取り組むことができます。



作った後には型抜きをしたり、スライムをお友だちと交換したりなど色々な遊びを楽しむことができます。

ビジョントレーニング

後だしじゃんけん:じゃんけんは年齢の小さいお友だちから大きいお友だちまで、参加することができます。いつもは勝つか負けるかのじゃんけんですが、この後だしじゃんけんは画面に出てくる<負けます!!><あいこになります!!>等の指示に従うじゃんけんです。指示を覚え、画面に出たグーチョキパーを見た後、指示に沿って自分が何を出したらいいのか判断します。集中力を養いながら視覚と短期記憶のトレーニングになります。



■訪問支援

支援員が保護者様からの要望で学校に訪問し、お子さまの様子を見ます。例えば、友だちと一緒に遊びたいと思っているお子さまに、個別の時間に支援員と一対一で遊びへの誘い方のロールプレイをし、その後に小集団で自分からお友だちを誘う練習をします。

ここでの成功体験により、学校でお友だちを誘えるようになる等、家庭、学校、療育(個別・小集団)の連携をすることができます。

3 成果と評価

- 自分に合った勉強方法がわかったことで、自分からすすんで勉強できるようになり、自信もつきました。
- 遊びの中で、「しんどーナツになってきた」と自分の気持ちをキャラクターにして伝えることができるようになりました。いつもなら上手く言えなかったり、気づけなかったりする気持ちを伝えることができるようになったことで、落ち着いて過ごせる時間が増えました。
- 声のレベルカードを横に置くことで、自分自身で声の大きさを意識して、会話ができるようになりました。
- 体を動かすことが苦手なお友だちでも周りのお友だちの楽しそうな様子を見て参加するようになり、卓球や運動遊びをする時に「この線までな」「何回でも OK にしよ」など、自分たちでルールを決めることができるようになりました。
- いろいろなことに興味がいつてしまうお友だちが長い時間、作ったり、遊んだりする姿が見られるようになりました。またお友だちに聞いたり、教えたり等、自然にやり取りする姿も見られるようになりました。
- 瞬時に判断する力や「お友だちはあっているかな？」等の観察力を養うことにつながりました。
- じゃんけんに勝つことを意識していたお友だちが「負けた～！でも、ゲームやし」と負けることへの抵抗感が少なくなりました。

4 今後の課題、他の施設・事業所へのアドバイスなど

これからも、保護者の方や一人ひとりのお子さまに寄り添った支援をいろいろな視点から考え、行っていきたいと思っています。